

平成28年度 授業評価アンケート分析

平成28年10月実施

<結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	全ての質問において、「当てはまる」と答えた生徒の割合が昨年度よりも低下している。特に割合の低下率が高いのが質問2, 4, 10であるため、丁寧な授業を心がける必要がある。しかし、昨年度に引き続き全ての質問において「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒が80%を超えているため、授業への満足度は高いと考えられる。	その授業内で何を学ぶべきなのかを明確に提示し、より丁寧な授業作りを心がけていきたい。昨年度と比べ、授業に集中できる雰囲気は向上しているため、授業の組み立てやICTの活用を工夫することで、机間指導の時間を増やし、理解が遅れている生徒への個別対応をし易い環境を作っていきたい。
社会	昨年より「よく当てはまる」が大幅に減少し、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が増加した。項目3の「わかった」「できた」と思えない生徒や、項目6の「授業に集中できる環境」ではないと思う生徒が増加していることが大きな課題である。暗記が主体という教科の特性から、定期考査の結果で自信が持てていないのではないかと。	教科書をすべて終わらせなければならないので、ある程度のスピードで授業を進めなければならない。生徒の理解力向上には沿っていないのが現状である。もう少し内容を精選することと、生徒が理解できるように、わかりやすい言葉で、視聴覚教材を使用しながら興味をひき、その授業が印象に残るよう工夫・改善していく必要がある。また、地元に関連することにもう少し触れても良いと思う。
数学	本校の生徒は数学の義務教育段階の基礎学力の低い生徒が多く、学び直しに力を入れてきた。しかし、昨年度と比べて、授業で理解できたと実感できた生徒は、2.8ポイント減少したが、先生の教え方はわかりやすいと感じている生徒が6.4ポイント増加した。	授業の例題や問題などを分かりやすいものを精選するとともに、プリントを増やし、授業中の板書を書き写す時間の効率化を図ったことでわかりやすいと感じた生徒が増加したと考える。多くの生徒「わかった」と実感できるよう更に工夫していきたい。
理科	生徒自身の授業に取り組む姿勢はできているが、授業に集中して取り組む雰囲気ができていないという結果がみられる。また、学習内容に対して「わかった」「できた」という達成感が不足している点から、学習教材の工夫が必要である。	落ち着いた授業に取り組む雰囲気をしっかりと作るため、以下の取り組みで改善を図る。 ①学習内容や単元の目標を明確にし、課題に取り組む姿勢を作る。 ②実験等を増やし、体験的に理解できるよう教材の工夫をはかる。
英語	昨年度とあまり変わらない結果となった。しかし、質問2の「先生の教え方はわかりやすい」の項目で「あまり当てはまらない」の割合が増えてしまった。「分かる」授業を目指さなければならないと考える。	「分かる」授業のためには、生徒の基本的な知識の定着を目指す必要がある。繰り返し何度も基本的なことを学習させ、スモールステップ的な課題を用意し、「できた」「分かった」という感覚を積み重ねてあげられるような授業改善が必要である。
保健体育	全ての質問において、「当てはまる」と「やや当てはまる」と答えた生徒が、90%を超えるため、授業への満足度は高いと言える。日頃から生徒の実態に応じて、「わかる」「できる」「かかわる」の視点を大切に、授業を進めてきた成果が、現れたと考えられる。	質問5と質問6に関して「あまり当てはまらない」と答えた生徒が7%程度いるため、さらに授業に集中できる雰囲気作りや、明確な評価基準の提示など授業の改善に努める必要がある。来年度は否定的な回答が、全ての質問項目で5%以下になるよう努力していきたい。
芸術	意欲的に取り組む生徒は多いが 実技を伴う教科のため、得手・不得手がでて来ることが多い	教材を精選し、 理解しやすい授業を目指したい また、多様な生徒に興味をもたせるために、授業内容を工夫したい。
家庭・福祉	昨年度と比較すると、評価が良くなった項目が多い。今後も、生徒の期待に応えられるような授業の工夫をしていきたい。	授業に集中できる雰囲気作りを大切にする。目的を見いだせないまま科目選択をしている生徒もいるため、学習内容について、より丁寧な説明を行う。また、わかりやすい授業や指導法についても、引き続き工夫していく。
農学	大凡の質問に対して半数以上の生徒がよく当てはまると答えている。3の理解できたかどうかという質問に対しては全体と比べて充実感が少ない。達成感、及び理解度をさらに高める指導が必要だと考える。7と9に関しては高評価なので自信を持って進めたい。	3の理解できたかどうかという質問について評価がやや低かった点について。全体の授業展開の中で個々の理解度、達成感を充実させるために反復学習や、個別対応、小テストなどの方法なども実施することで全体生徒の理解を確認しながらカリキュラムを進行して行くべきだと考える。
機械	概ね、良い方向や、前向きな解答が多く、実習を中心とした、分かりやすい授業の展開を促してきた結果であると考えられる。しかしながら、質問6で授業に集中できない雰囲気であると解答している生徒が7.5%になることで、昨年度(9.7%)より改善できているが、授業の雰囲気作りは課題を感じる。	基本的に作業を伴う授業が多く、怪我の危険性が絶えず伴うので、これまで同様、開始前の注意や指示を徹底させ、事故の無いように努める。また、聞く姿勢や授業中のルールを徹底させ、生徒が集中してできる雰囲気づくりを心がける。
商業	授業に集中できる雰囲気にないと答えたり、授業で「わかった」「できた」と思うことがほとんどないと答えている生徒が、今年度は2割を超えており、一部生徒の授業への取り組み状況が良くないことがあげられる。それらの生徒にも興味関心を持って取り組めるような指導方法を確立していくことが課題となる。	生徒が授業により興味関心を持ち、「わかった」という満足感により、さらに深く学習に取り組めるよう、習熟度別の学習を行い、動機付けや教材提示の方法などに工夫して取り組みたい。また、学習が進んでいる生徒に対しても、学習目標(検定試験など)に対応できるように、教科担当者の連絡を密にし取り組んでいきたい。
情報	「授業が始まるまでに、自分の準備ができている」「まじめに取り組んでいる」と回答する生徒が多いため、その取り組みに答えられる授業をしていきたい。	・授業の中で「できた」「わかった」と思う機会を増やす努力をしなければならないと感じた。 ・話すスピードをもう少しゆっくりと話す必要があると思った。